

概要

日程：2017年1月20・21日

場所：日本教育会館（東京都）

1日目-----

第1部 講演会 講師：藤井克徳氏（きょうされん専務理事）

演題：「憲法や障害のある人の権利について考えよう」

第2部 利用者部会員による寸劇

利用者部会員の寸劇による日本国憲法第25条や差別についての説明

第3部 お知らせや代表者会議の報告など

交流会 「ハッピーラッキーパーティー^o^ 2016in とうきょう」

12のテーブルに分かれ、夕食やレクリエーションをしての他の作業所との交流

2日目-----

分科会 ①職員への本音 ②しごとじまん ③休みの過ごし方 ④わたしのくらし

の4つの分科会に分かれての意見交換

第1部 藤井克徳氏の講演

日本国憲法とは「戦争をしないこと」と「命を守ること」という内容が書かれた法律です。このことを踏まえ、昨年7月26日に神奈川県相模原市障がい者施設やまゆり園で起きた殺人事件についてお話をお聞きしました。講師である藤井氏はこの事件で当事者側からみて怖かった点が2つあると言います。①この事件の犯人が施設利用者の方にとって信頼していた職員だったこと②優生思想の考え方です。優生思想とは「強いものだけが生き残ればいい」という考え方です。犯人はこの優生思想の考えで犯行に及びました。この話の中で短歌の紹介があり、「早や風化 黙殺もまた世間から 二重の殺め 障害ゆえか」と詠まれていました。二重の殺めの二重とは①犯人に殺されたこと②周りの人が黙っていたこと。この事件の後、総理大臣はこの事件について国会の所信表明の場で一回も語っていません。周りの人が黙っていることによって何事もなかったかのように風化してしまいます。風化させないためにここにいる皆さんで声を上げていきましょう！ということでした。

私も、もし、自分が信頼している職員の方、または親に裏切られたとしたら.....と考えると本当に恐ろしいことです。また、短歌であった二重の殺めのことをお聞きし、このような恐ろしい事件がまるで何事もなかったかのように風化させてはならないと強く感じました。藤井氏は「もし、憲法が守られていたなら、こんな事件は起こらなかった。」とおっしゃっていました。私たちがもっと声を上げていかななくては何も変わらないのだと思いました。

日本全体の決まり（ルール）である日本国憲法はこの日本という国がこれから進む方向を考えているものであり、全部で103項目あります。今回、この憲法の講演をお聞きするにあたり、いくつかのポイントについて話されていました。その中の2つを紹介します。①「日本国憲法第9条：戦争はしません。軍隊は持ちません。」世界中の障がいのほとんどが栄養失調や戦時中散布された枯葉剤による遺伝的な障がいなど、戦争によるものです。②「日本国憲法第97条：生きるための権利は永久に守られます。」障がいの有無に関係なく、全ての国民の権利です。今、憲法9条の改正がニュースにもなっています。なぜこの9条を変えようとしているのかの説明がありました。①軍隊を持てば他国との交渉が上手くいくから②日本の技術で軍備を作ればお金が儲かるから....などが挙げられます。

私もニュース等で憲法第9条の改正について何回か耳にしました。しかし、内容自体はよく分からないでいました。「憲法第9条を変えれば自然的に私たちの生きる権利について書かれている憲法第97条も変わってしまう」ということをお聞きし、私たちにも深く関わっていることなんだと思いました。

次に障害者権利条約についてのお話をお聞きしました。権利条約とは「世界共通のルールを作り、みんなが一緒に考えられる」というものです。一人一人がその人なりに生きていけるように「社会の側からその人に近づくように」

ということを行っています。4年と100日かけて議論した結果、「私たち抜きに私たちのことを決めないで」というところまでできました。

世界には「障がい者という前に一人の人間」という考えの国があります。そのような中であって日本は「一人の人間という前に障がい者」という考えがあり、悲しく感じました。しかし、今、「私たち抜きに私たちのことを決めないで」と当事者自らが言えるように変わってきたことは良いことだと感じました。

次に優生思想について、ナチス・ドイツの障がい者大虐殺事件のDVDの映像を見て学びました。まず、なぜ、昔のことを学ぶのかの説明がありました。①同じことを繰り返さないこと②二度と忘れないためです。軍隊を強化するには当然、お金がかかります。このお金は障がい者、または高齢者の方にあてるお金を減らして作りました。ヒトラーは戦争で役に立たないとされた障がい者、高齢者の大虐殺を実行しました。当時は国と医者がグループになり、病院の地下室で毒ガスにより殺されました。1941年8月までに6つの施設で7万人以上が殺されました。これらの作戦を^{ティーフォー}T4作戦と呼びました。ある日、T4作戦の中止命令が出ますが、その後も障がい者の虐殺は続きました。最終的には120万人以上の犠牲者が出ました。

私たちの暮らしているこの社会は優生思想に基づいて成り立っている部分があります。そして、障がいに限らず様々な差別で溢れています。藤井氏は「今の時代、差別の反対語は無関心だ。」と言います。差別の反対語が平等ではなく、無関心ということに悲しくなりました。また、藤井氏の「憲法9条が変えられればナチス・ドイツの事件と同じようなことが起こる可能性が出てくる。」という言葉聞き、他人事ではなく、私たち一人一人が声を上げていくことが大事なことだと思いました。

第2部 利用者部会員による寸劇

～障がいが理由で施設を使えない～

北海道はラーメンが美味しいです。私もラーメンが大好きです。ラーメンが食べたくなったので、ラーメン屋さんへ行きました。しかし、車いすだからという理由でお店に入れてもらえませんでした。また、別の日のことです。用事があり、始発の電車に乗ろうとしたら、車いすだからという理由で乗れませんでした。また、作業施設を利用するにあたって毎月9千円の利用料が発生してしまいます。こんなことに困っています。

～どうして差別をしてしまうのか～

差別をする人も本当は差別をする気はありません。ただ、障がいというものがどんなものなのか知らないために、差別をしてしまいます。

寸劇にすることにより、感情が表現され、すごく伝わってくるものがありました。

交流会「ハッピーラッキーパーティー^o^ 2016in とうきょう」

夕食をとりながらレクリエーションを楽しみました。万歩計を手で振り、表示された歩数を競いました。それぞれが考えて振り方も工夫しながら取り組んでいました。また、〇×クイズも行いました。きょうされんの活動に関したことや今回の講演会で学んだことなどが問題になりました。また、会場のスクリーンには作業所での作業の様子が映し出されました。ダンスも踊り、たくさん食べ、参加された皆さんも満足して1日目を終えることができました。

2日目 -----

分科会

しゃべり場を行いました。私は「わたしの暮らし」をテーマにした分科会に参加させていただきました。話した内容をQ&A形式にしてみました。

Q. 今までヘルパーさんといっしょに通院をしていました。しかし、ヘルパーさんが減り、来られる日数も減ったためお互いの都合が合わずに「来週は外出できません。」と言われてしまいます。どうすればいいのでしょうか？

A. 署名や募金を通して私たちの声を大にしていかなければなにも変わらないと思います。

以上が「わたしの暮らし」で出された質問や意見の一部です。日常の生活で感じていることを当事者同士で共有でき、とても素晴らしい会でした。今回、初めて知ったのはヘルパーさんの人数が少なくなっているということでした。また、特定の条件により、受けたいと思う制度が受けられないという深刻な問題も挙げられました。この分科会を通して改めて署名や募金活動など自分にできるところから積極的に取り組み、当事者ならではの声を上げることが必要だと感じました。